

新聞、雜誌により喧伝せられ、朝鮮人層の國家愛と大いに振起す所ありたり。

### 第五節 特別志願兵後援会の結成

特別志願兵は、朝鮮朝野の期待も裏切る事なく斯く順調に進展せるも、徴兵制のためらざる為内地人の如く所謂銃後組織整備せられず、ために軍事救護の処置並の如きも適時適切に実施せられず且志願兵詮衡検査受験の爲の旅費宿泊料の如きも自辨に依らざるを得ざる状況に在りしを以て朝鮮人有識者間に之が援護後援の運動招頭し先づ京城に於ては夏山茂、朴共植等の有志起り廣く全鮮に呼びかけたり。朝鮮總督府に於ても之が運動を側面的に援助し十四年一月遂に尹致日をも会長とする朝鮮特別志願兵後援会結成せられ廣く寄附金をも募集し志願兵の銃後を安定せしめたり。

## 第三章 特別志願兵の發展

### 第一節 採用人員入營部隊等の増加擴大

第一回特別志願兵は以上の如く入営後の成績極めて良好にして且其の資質亦良好にして一般内地兵に比し此したる遜色を認めずとの実證を得たるを以て尔後逐年その採用人員、兵種決定範圍、入営部隊を増加せられ昭和十七年以降に於ては其の採用範圍も殆んど内地兵と同様となるに至れり。

その増加の経過は左表の如し

採用年	採用人員	採用兵種	入営部隊
昭十三年	四〇〇	歩兵、輜重兵、高射砲兵	第十九及び第二十師団
十四年	六〇〇	同右	同右
十五年	三、〇〇〇	同右	第十九及び第二十師団、関東軍(輜重兵のみ)
十六年	三、〇〇〇	歩兵、輜重兵、高射砲兵、野山砲兵	同右
十七年	四、五〇〇	全兵種	朝鮮軍、関東軍、北支軍
十八年	五、三三〇	同右	内外地各軍
備考	本表の外に三、八九三名の臨時特別志願兵(学徒兵)あり		

## 第二節 志願兵訓練機構の強化

採用人員の増加に伴い朝鮮總督府に於ては昭和十七年十二月新に平壤府内旧米國系女学校を改築し、訓練所を増設し京城を第一、平壤を第二訓練所と呼称せり。本訓練所初代所長には元麗水要塞司令官たりし上住良吉予備陸軍大佐就任せり。

又軍に在りても昭和十七年採用の志願兵の飛躍的増員に伴い各訓練所に所要の在職將校、下士官、兵を派遣し教育の援助指導に力らしめたり。

尔後引き続き訓練を継続し昭和十九年徴兵移行迄に延約一萬七千名の志願兵を養成せり。昭和十三年乃至十八年の志願兵採用状況は、別表第一乃至第七の如し。

又同志願兵の年次別志願者数は左表の如し。

年次別	採用数	志願者数	摘要
昭和十三年	四〇〇〇	二、九四六	本資料は内務省管理 局資料による。 (昭二〇、五)
十四年	六〇〇〇	一、三三八	
十五年	三、〇〇〇	八、四四三	
十六年	三、〇〇〇	一、四四七	
十七年	四、五〇〇	二、五四二	
十八年	五、三三〇	三、〇三三	
十九年	三、三三〇	三、九四四	